

URL:fukushimafolklore.com

E-mail:fukushima.folklore1971@gmail.com



令和6年度東北地方民俗学合同研究会「撮ること・残すこと・活かすことー民俗と映像記録ー」

令和6年度（2024年、第40回）東北地方民俗学合同研究会は、11月16日土曜日、青森県弘前市の弘前大学文京キャンパスにある、人文社会科学部4階の多目的ホールで開催されました。

連携企画として、同キャンパス内の弘前大学資料館において弘前大学資料館・青森県郷土館共催企画展として、「撮る・残す・活かすー映像資料と東北の民俗ー」も併せて開催されており、参加者に展示会観覧の案内がありました。展示ではタブレット端末などをフルに活用して、新旧の映像を流しながら、これまでの映像と民俗学の歩みを分かりやすく紹介していました。

今年度の研究テーマは「撮ること・残すこと・活かすことー民俗と映像記録ー」でした。青森県民俗の会代表の古川実氏の開会挨拶に続いて、同会の村中健太氏から大会趣旨及びテーマ説明がありました。テーマは、スマートフォンの普及による「撮影の一般化」、廉価なソフトウェアによる「編集の一般化」、デジタル化の進展とインターネットの普及による「共有・公開の一般化」によって、民俗調査の場面でも変化が生じるようになったなか、民俗調査者が映像を記録する意義、民俗伝承における活用のあり方、あるいは映像価値の再確認などを、我々民俗学者が議論をアップデートする必要があるとの認識により設定したとの説明がありました。

この趣旨にもとづき発表した各県代表者とテーマは次のとおりです（発表順）。

- ① 今井雅之氏（東北民俗の会）
「当事者参加型アーカイブの構築」
- ② 豊田 暁氏（福島県民俗学会）
「福島県郡山市における映像記録の事例」
- ③ 阿部宇洋氏（山形県民俗研究協議会）

「映像資料の活用事例と可能性 ～原方刺し子、360° 動画の取り組み～」

- ④ 小田島清朗氏（秋田県民俗学会）

「民俗芸能映像と私の研究」

- ⑤ 下田雄次氏（青森県民俗の会）

「民俗芸能の実践・保護における映像撮影ー津軽地方の民俗芸能・祭囃子を中心にー」

- ⑥ 阿部武司氏（岩手民俗の会）

「民俗行事と民俗芸能の映像記録を考える」

発表の論点は多岐にわたりますが、おおまかに内容を分類すると、今井氏と豊田氏が映像記録のweb上での公開による効果について、阿部宇洋氏、小田島氏、下田氏、阿部武司氏が映像を記録する上での技術、問題点、可能性について力点をおいていました。共通する課題として、予算（撮影機器、保存機器の更新や編集委託のかかるもの）、権利関係、撮影する者の技量と熱意など挙げられました。

休憩をはさんだ意見交換の場では活発な議論が交わされました。論点として次のようなものがありました。

1. なるだけ記録を全て残すのか、それとも部分的に注目して残すのか。そして民俗学上の記録か、あるいは文化財としての記録かという点。
2. アナログ媒体からデジタル媒体の変化にともなって、ハードディスクドライブの故障など、記録が長く残りにくい場合があり、このことについて特に民間人が困るのではないかという点。
3. 映像の視聴者が、その記録から芸能などの固定化したイメージをもってしまわないか懸念されるという点。

1については、映像業者でもある阿部武司氏はどちらもクリアしたいとしつつ、どうしても限界

福島県民俗学会通信誌『ふおーらむ・F』 20号

2025(令和7)年3月31日発行

編集・発行:福島県民俗学会(会長 岩崎真幸)

事務局:福島県立博物館内

(〒965-0807 福島県会津若松市城東1-25)

<https://fukushimafolklore.com>

通信誌編集担当:渡邊彩・齋藤りぼん